【ねがいましては】

平成１９年４月２５日　　*KYOWA SCHOOL*
第１９８号

「本物の先生たち」

新学期が始まり、新１年生がちょろちょろと教室をにぎわせています。新鮮味があります。染まっていない彼らは、それまでの保育園や幼稚園などで見せていた自分や家庭での自分をそのまま連れてきます。何が勉強で何が遊びで、何が良いことで何がいけないことなのか、おどおどしている様子もなく自由気まま自然体なのです。基本はとても大切、読む（声を出す）・書く（指を使う）・計算（そろばん）・・・。この３原則はどうしても譲れないと私は考え、きょうもひらがなや数字の練習です。

先日、脳トレブームに火をつけた川島隆太先生の講義がありました。４年ほど前に、都内の書店で見つけた『読み・書き・計算が子どもの脳を育てる』（子どもの未来社）という本が、実は川島先生のものであったとは・・・。今気が付いた自分の不甲斐なさ・・・。脳のどの部分が最もよく働いているかを測定できる装置が開発され、またさらに研究を重ね、認知証の方の脳の働く部分と、健常者の方の脳の働く部分を調査研究した結果、おでこの部分→前頭前野（人らしさを形成する部分）が大きく係わっていることがわかってきたのだそうです。

頭の良い子・・・お母さま方が最も過敏に反応することばです。頭の良い子になるにはどのような教育をさせたらよいのか？　ご友人やテレビ、書籍などから様々な情報を手に入れて、さあどうしよう・・・？　心の奥底ににじみ出てくる我が子への期待→『欲』・・・。小学校へ上がって良いスタート（良い成績）が切れるようにと、３歳頃から始める英才教育、またその親の足元に付け込んでの多様な習い事・・・。その習い事のほとんどが、最終段階を迎えたとき、母のこころはひとつところへ集まります。・・・『成績』。

川島教授が言うには、日本古来の寺子屋式学習が最も子どもには良いといいます。先ほどの３拍子がそろっているのだそうです。川島教授の口からは「頭の良い子」という言葉が度々出てきますが、講義の中で私の最も気にかけていることが係わっていることに、改めて自信を深めました。

実は、前頭前野が非常によく発達している子は、次の点に優れているのだそうです。

思考力・創造力・行動や情動の制御・コミュニケーション・記憶・学習・自発性・やる気・集中力・・・。

「キレル」という言葉が登場したのはかなり最近のこと、私たちの小学校時代（３０～４０年前）には聞かれない言葉であったはずです。長期にわたってトレーニングをしていかないと身につきにくい習い事（お習字・そろばん）は徐々に押しやられ、短時間で効果を発揮する習い事などが台頭、それが前頭前野の発達に影響を与えてしまったようです。

先ほどの中の『行動や情動の制御』という部分、私が常々訴えている『おもいやり・やさしさ』の根幹を成すものであったのです。何が良くて何が悪いかをしっかりと考える。自らの中に現れた感情を冷静に判断し、それに当てはめ行動に出す。そこから生まれた行動こそ『おもいやり・やさしさ』なのです。

この教室に通って、もう３年・４年・５年・６年、いやそれ以上の子たちが、ことごとく強い理性を持ち合わせていることに、先ほどの前頭前野のお話がスパッと当てはまった瞬間、身震いが起きました。

きょうも新１年生たちが机にすわり、声を出しながら「１・２・３・４・・・」と数字を書いたり、「あ・い・う・え・お・・・」などとひらがなを書いたり・・・。その傍らでそっと見つめる先生がいます。５年生・６年生・中学生たちです。「ねえ、○○ちゃん。△△ちゃんのとなりで一緒に声を出してあげてくれる。」と、彼らに手伝ってもらいます。その目はイライラとか、このヤロー、のような怒りに満ちたものではありません。理想の先生の眼差しです。さらに教わっている当の小学校１年生たちも静かに落ち着いて向かっています。「あ・い・う・え・お・・・」この光景をお母さま方に見ていただきたいです。反面この怒りをしっかり前面に出すことの上手な方がいます。お母さま方です。前頭前野のトレーニングが足りないようです。

夜の中学生たちの勉強、数学での風景、それぞれがノートに丁寧に式を書き上げてゆきます。
半年前、１年前には全く見せなかった落ち着きのある、やさしい表情です。
もちろん出来るようになったからという理由もあるのでしょうが、
それ以外の理由があったのですね。机にすわり、鉛筆を走らせ思考する。
このことが非常に強い前頭前野の発達を促がしているそうです。

そろばんをする子たちにとっては、数字を『読む』、答を『書く』、
計算『そろばん』をする。また勉強をする子達は、問題を『読む』、
ノートに文字を『書く』、同時に『計算』する。

実際の講義で使われたスライド

多くの教育者たちが、『絶対になくしてはいけない教科をひとつあげなさい』という問いかけに、ほとんどの方が『算数・数学』と答えるのだそうです。その理由も裏付けられたような気がいたします。

なぜここに通う子たちが『深いおもいやりとやさしさ』に溢れているのか・・・。

これからもこつこつと向かいましょう。